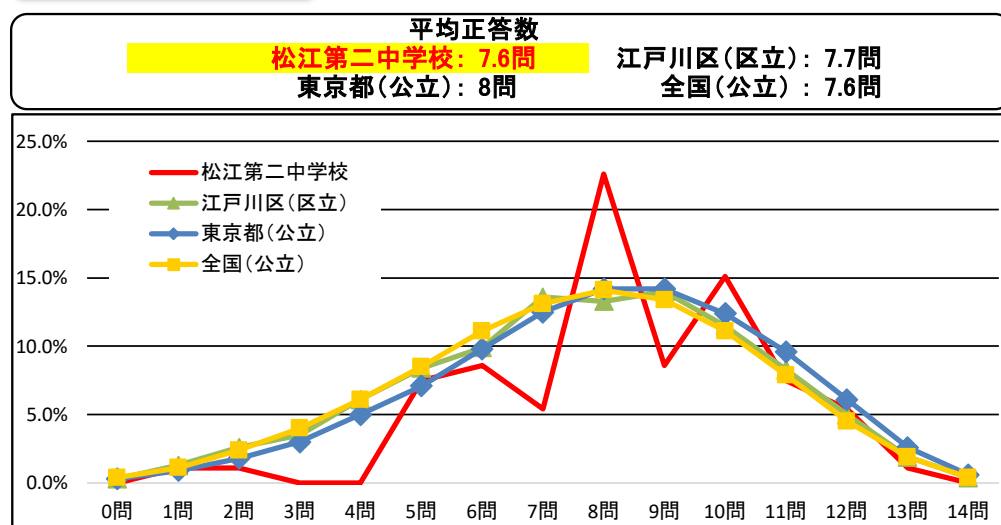


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 松江第二中学校

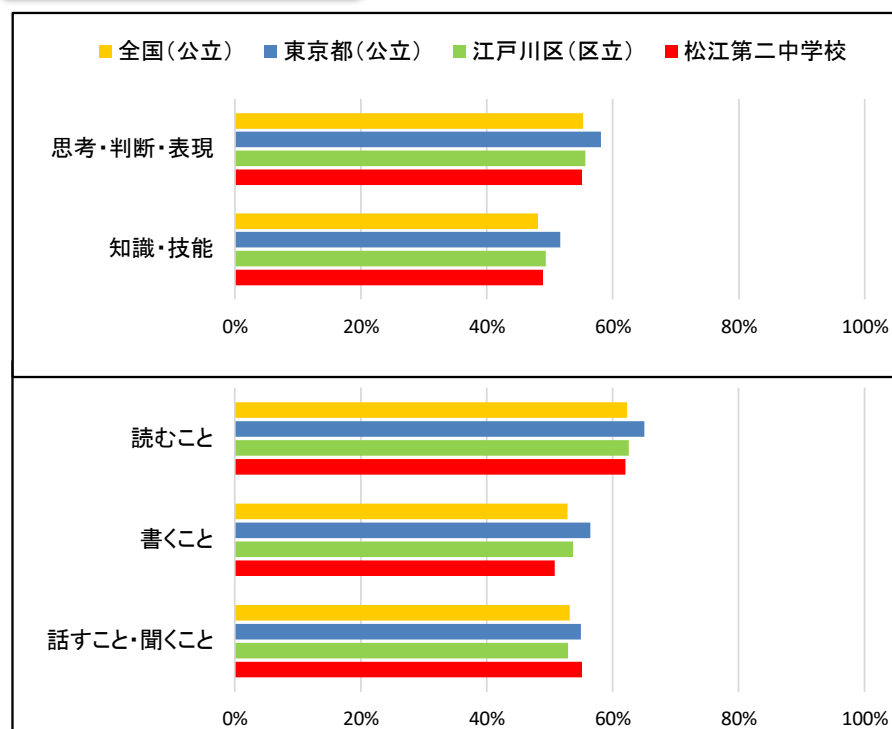
正答数分布



【平均正答率の差】

松江第二中学校	54%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-3.0

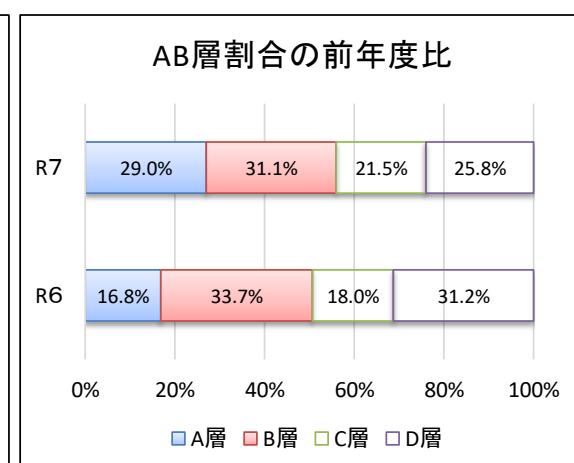
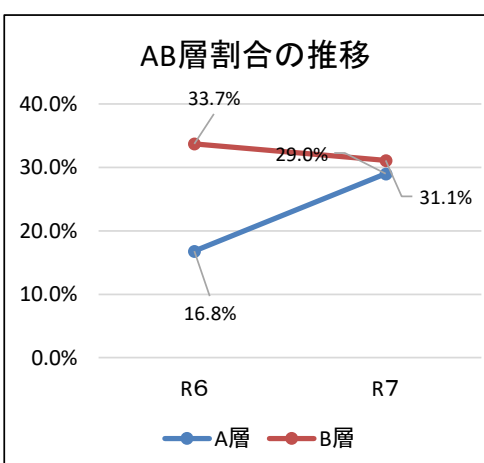
「領域別」の結果



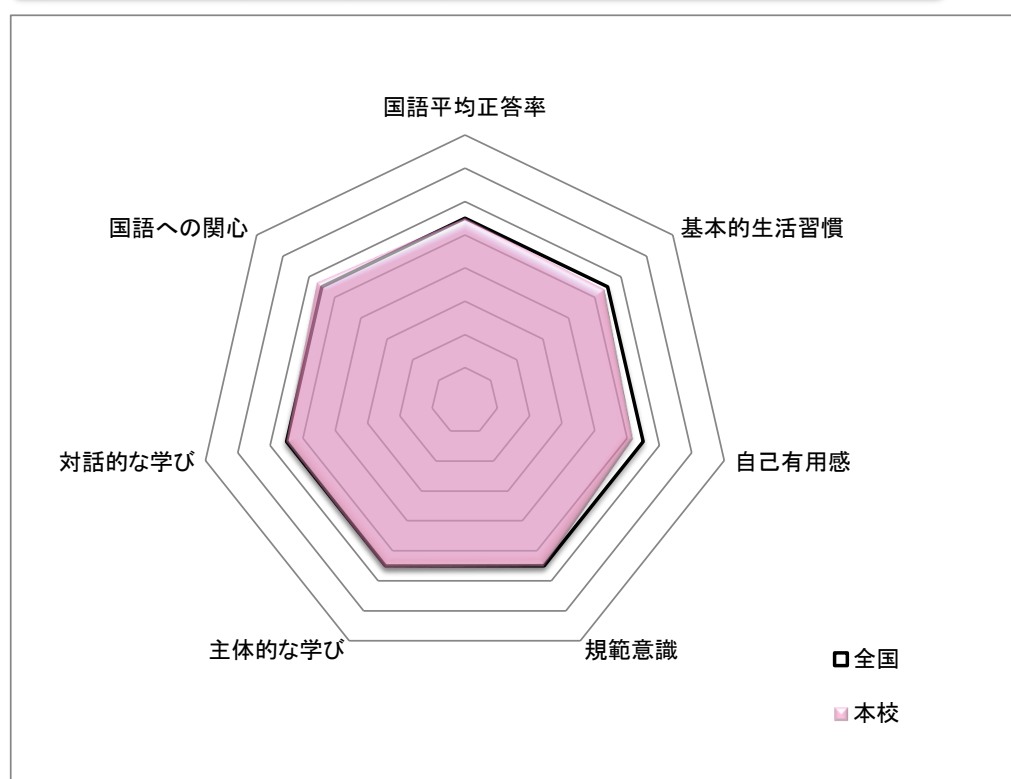
四分位における割合（都全体の四分位による）

国語	上位 ← 下位			
	A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	D層 0～5問
松江第二中学校	29.0%	31.1%	21.5%	25.8%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

国語への関心が全国平均よりも高く、工夫した授業づくりが生徒の興味関心へとつながっていることが分かる。また本校の国語の授業は学び合いの時間が多く、対話的な学びに関する値も高く出ている。さらに発表活動や作文活動を多く取り入れ、生徒が進んで自分の考えを表現し、生徒同士で評価しあう活動が多いため、主体的な学びの値も全国平均並みの数値を確保することができている。

《家庭・地域への働きかけ》

本校独自の放課後補習活動「サイレントスタディ」では近隣の高校の先生にも参加いただき、高校入試に関連して、生徒の質問に個別に対応し、知識・技能を高めると同時に、入試を攻略する実践力も養っている。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

A層の割合は昨年度よりも大きく向上させることができた。普段の授業における基礎的な知識・技能の習得に向けた小テストや繰り返し復習する課題に力を入れた成果である。さらに朝読書やよむYOMU学習の活用を工夫したことにより思考力や表現力が全国平均に近づくことができています。また、今年度から始めた放課後に本校独自に行う学習活動サイレントスタディ等も学力向上につながっていると実感している。

一方B層の割合が昨年度より減少し、C層の割合が増えてしまっている。これは学力の格差が広がる傾向にあるため、個別的な指導や習熟度別の学習に今後力を入れて、B層が向上できるよう務める。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

昨年度、校内研修において「学力向上」をテーマに研修グループを作成して「課題別研修」を行った。「ICT教材の活用法」や「発問における工夫と学力向上」など、グループごとに小テーマを設定してグループで外部研修等の情報を共有して、自身の授業で検証等を行い、校内研修で発表会を行った。様々なグループの発表内容を多くの教員が昨年度から今年度にかけて実践している。それによる授業改善が今回のA層を高める結果につながっていると感じる。

・基礎学力の保障

週に一回漢字テストを実施し、語彙力の向上を図っている。また、単元の学習終了後、まとめテストを実施し、授業内容の振り返りと共に、文法、漢字学習の振り返りも合わせて実施している。

・学習習慣の確立

家庭学習ノートの実施を励行している。また、週に一回の漢字テストのために、ワークブックを用いて繰り返し練習を実施させている。

・AB層の育成

単元のまとめテストの内容に応用問題を網羅している。さらに、学習の習熟段階により、より発展的な内容を提示し、自主学習での取り組みを推奨している。